

Showa Denki Group

2019 Round.8 SUZUKA CIRCUIT



J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Infomation 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦 第51回 MFJ グランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

開催日：2019年11月2日(予選) 11月3日(決勝)
三重県・鈴鹿サーキット (1周 5.821km)
観客動員数：31,500人 (2日間合計)

J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛

マシン：HARC-PRO. HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE
予選：2番手 (タイム：2分10秒015)
決勝：優勝 シリーズランキング：2位

ST600 クラス #71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：18番手 (タイム：2分14秒041)
決勝：8位 シリーズランキング：21位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：22番手 (タイム：2分35秒361)
決勝：18位 (INT：8位) シリーズランキング：11位



弊社広報社員ライダー

J-GP2 クラス #634 名越 哲平 (写真中央)
J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛 (写真右)
ST600 クラス #71 上原 大輝 (写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



弊社社員ライダーの名越哲平がシリーズチャンピオンを獲得！
■名越 哲平 J-GP2 class 第8戦 鈴鹿サーキット結果
予選：P.P 決勝：2位 シリーズランキング：チャンピオン



【71Project Riders】

- JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda
- J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido
- J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita
- ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki
- JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama
- JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべく、チームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクشنナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round.8 SUZUKA CIRCUIT

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



榎戸育寛が最終ラップに前に出て今シーズン3勝目をマーク！



2019年も三重県・鈴鹿サーキットでフィナーレを迎えた全日本ロードレース選手権。2010年から続いてきたJ-GP2クラスは、最後のレースとなる。逆転チャンピオンを狙う榎戸は、とにかく勝つしかない。追うのは、チーム名は違うものの、同じハルク・プロであり、昭和電機の広報社員でもある名越哲平選手。チームメイトであり最大のライバルでもある2人は、お互いを認め合い切磋琢磨しながら、今シーズンを戦ってきた。7ポイントのピハインドをひっくり返すのは容易ではないが、前戦オートポリスで悔しい2位となっていたため最終戦は勝ってシーズンを締めくくりたいと思っていた。そのためにトレーニングにも力を入れ体脂肪率8%まで絞っていた。同じマシン、同じタイヤを履くライバルに勝つために、やれることは、全てやって最終戦に臨んでいた。



ST600 #71 Daiki Uehara

ST600クラスの上原は、全日本一の激戦区と言われるクラスで揉まれながらもシーズン後半戦になり、ST600ライダーとしてのライディングを身につけてきていた。今回の鈴鹿でも走り出しはよかったが、2日目に転倒を喫してしまい、そこから調子を落としてしまっていた。

レースウィークの天候は安定し木曜日から日曜日まで、すべてドライコンディション。公式予選の行われた土曜日は快晴となり、榎戸は名越選手と共にコースイン。ここで2分10秒015をマークし、リーダーボードのトップに立つ。セッション終盤は、決勝に向けた確認を行っていたが、名越選手はコースレコードを更新する速さを見せポールポジション。榎戸は、2番手となったが、アペレジタイムでは、勝負できる自信があった。



J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido

そして運命の最終戦がスタートする。榎戸は好スタートを見せホールショットを奪い、その背後に名越選手がピッタリとつけ、作本選手、尾野選手と続いて行く。東コースから西コースに入っていくと、スプーンカーブの進入で名越選手が強引にインに入ってくるブレーキングでややバランスを崩す。これに榎戸は接触しコースアウト。すぐにコースに戻るが7番手までポジションを落としてしまう。榎戸は、オープニングラップのうちに2つポジションを回復し5番手で2周目に突入。2周目のヘアピンで阿部選手をかわして4番手に浮上。その直後のスプーンカーブの進入で名越選手が作本選手をかわしてトップに浮上していた。これを見た榎戸だったが、焦らずに3周目に2番手に上がると、名越選手の追撃態勢に入る。榎戸は、4周目にベストラップとなる2分10秒173をマーク。名越選手を上回るペースで、そのテールに迫って行く。2分10秒台というハイペースで繰り広げられたバトルは、最終ラップまで続く。榎戸は、自身のストロングポイントを分析。ファステストラップを出しながら逃げる名越選手を徹底マークし、最終ラップのシケインで勝負を仕掛ける。インを閉める名越選手に対し、アウトから並び、シケインの切り返しでインを取った榎戸が名越をパス。見事今シーズン3勝目をマークし、J-GP2クラスのフィナーレを飾った。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

ST600クラスの上原は、激しいバトルを繰り広げながら周回を重ね、レース終盤に転倒が相次いだこともあり、一気にポジションを上げ8位でフィニッシュ。自己最高位で2年目のST600クラスを締めくくった。

赤間の参戦するJP250クラスも木曜日から走行があり、1年振りに走る鈴鹿を3本のフリー走行で攻めて行く。マシンセット、そしてライディング面でも、いろいろ試行錯誤し予選では、自己ベストとほぼ同タイムをマーク。決勝では、着実に周回を重ね総合18位、国際クラス8位でチェッカーフラッグを受けた。

■榎戸育寛コメント

「最終戦を勝って締めくくって、すごくうれしいです。予選では、チームメイトの名越選手がコースレコードでポールポジションでしたが、ボクの方は結果的に決勝を見据えた予選セッションになっていたため、アペレジでは勝負できると思っていました。オープニングラップのアクシデントで順位を落としましたがトップも見えていましたし、落ち着いて追いつきました。ただペースも速かったので一瞬も気を抜かないレースでした。名越選手のおかげで自分も進化できましたし、楽しいシーズンを送ることができたと思います。今シーズン序盤は苦戦気味だったのですが、SDG Mistresa RT HARC-PRO. のチーム力に助けられました。本当にすごいチームです。このチームの一員になれたことを誇りに思い、これからも切磋琢磨していきたいと思っています」

■上原大輝コメント

「レースウィークに入って、すごく調子がよかったです。2日目に転倒してしまいリズムが崩れてしまっていました。予選では、2分13秒台に入れたかったのですが、ギリギリ入れることもできませんでした。レースでは、集団の前に出てしまうペースを上げることができず2台にパスされてしまいました。終盤に前に出て結果的に目標としていたシングルフィニッシュを達成できましたが、レース内容は、今ひとつだったと思います。2シーズン、SDG Mistresa RT HARC-PRO. という最高のチームで走ることができ、すごく感謝しています。また、多くの皆さんに応援いただいたことも重ねて感謝いたします。この経験を来シーズンに活かせるように、これからも頑張っていきたいと思っていますので、引き続き応援よろしくお願いたします」

■赤間 清コメント

「1年振りの鈴鹿でしたが、レースウィークは天気に恵まれて、ドライで走ることができました。練習走行が3本あったのですが、その中で考え得るセッティングをいろいろ試し、公式予選では、すぐに自己ベストと同等のタイムを出すことができました。レースでは、目標としていた選手に離されてしまい、他車とのバトルになりました。結果的に競り負けしてしまったので悔しいレースになってしまいましたが、1年を通してみれば、いいシーズンを送れたと思っています。今回も昭和電機さんの大応援のおかげで力をもらえました。またシーズンを通して応援してくださった皆さんにも感謝申し上げます」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで